



すぎ七

杉並区立杉並第七小学校

校長 畝尾 宏明

TEL 3392-6328

FAX 3393-7536

令和5年6月1日 No.547

With コロナ After コロナのマスクを考える

校長 畝尾 宏明

マスクを外すことが基本

「マスクを外すことを基本とする。」これは国・都・区より出された各種通知に必ず書かれている文言です。

本校でも、4月20日付「熱中症対策を踏まえたマスクの着用に関する方針について」や5月8日付「5類感染症への移行後の杉並区立学校感染症対策と学校運営について」において国・都・区からの通知を受けてお便りを出させていただいているところです。

厚生労働省も3月13日以降のマスクの着用は個人の主体的な選択を尊重し、マスクの着用は個人の判断が基本となるとの考え方を示しました。従来の屋外ではマスク不要、屋内ではマスク着用としていた考え方を大きく緩和に向けて踏み込んだ形となりました。

さらに、5月8日からは新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、季節性インフルエンザと同じような対応となったことも記憶に新しいところです。

でも街中や校内では？

さて、それでは街中ではどうでしょうか？行きかう人々を拝見すると、マスクを着用している人とそうでない人がまだらに見えます。場面や場所によって変わりますが、マスクを着用している人のほうが数としては多いのかな？という印象です。（あくまでも私の感想ですが）

では、学校はどうでしょうか？校内でもマスクを着用する子とそうでない子はまだらに見られます。傾向としては、低学年になればなるほどマスクを外す児童が多く、高学年になるとマスク着用率が高いように思います。また、街中のそれと比べると、校内の方がマスクを着用している率は低いと感じます。

自分で判断して行動できる子を育てる

私は、コロナ禍を越えたこれからの時代を生きる子供たちには、「マスクの着脱を自分で判断し、適切に対応できる」力が必要であり、これを育成する教育が学校には求められると感じています。

ですから、マスクをする、しないはあくまでも個人の判断であり、その判断は尊重されなくては

ならないのです。

一番よくないのは、「本当は外したい（着きたい）のにみんなが着けている（外している）からみんなに合わせる」という考え方です。これは主体的に考えていませんし、同調圧力に流されてしまっています。またほかの人に対して、「マスクをつけるべきだ（外すべき）だ」と強要するのも違います。

つまり育てたい児童像は・・・

○これから外で運動するからマスクは外しておこう

○ご高齢の方とお会いするからマスクは着けておこう

○今日は気温が高く熱中症の危険があるからマスクは外さないといけな

○風邪が流行ってきていると聞いたので、マスクは着けておこう

など、

自分で考えてマスクの着脱を判断し行動できる子供です。そして、人それぞれの考えを尊重し、

○マスクの着脱はその人なりの理由があるのだから尊重しよう。

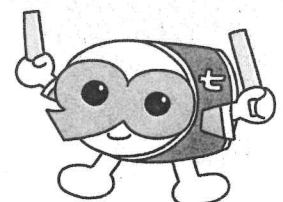
と考え行動できる子供です。

学校の指導は発達段階・場面に依りて

でも、「自分で考えて行動できる子」といっても1年生にはまだ難しいでしょう。また、熱中症の危険がある場面では、主体性の重視よりも命を守る行動が最優先であることは言うまでもありません。

ですから、学校では発達段階や場面に依りて「マスクを外しなさい」という指導も行います。特に、熱中症が心配される今は、やや強制的にでもマスクを外す指導が必要です。ご理解ください。

追伸 — そんな私は、今、満員電車に乗る前にはマスクをつけ、降りて街を一人で歩くときにはマスクを外しています。マスクを初めて外すときはちょっとドキドキしたものです。



すぎしち教室の紹介

すぎしち教室ってどんなところ？

得意なことや苦手なことは子供にも大人にもありますが、学校では、その苦手なことが特に大きく感じる場合があります。学校にはたくさんの方がいて、皆が安全で幸せであるようにいろいろな「きまり」があったり、たくさんの方がいるので自分のペースで進められる時間が少なかったりするからかもしれません。

すぎしち教室では、自分の得意なことと苦手なことがわかるように話し合い、得意なことをのびし、苦手なことはその進め方を一緒に相談します。クラスでより楽しくすごせるように、考えたり試してみたりするところがすぎしち教室です。困っていることが解決すると、心が元気になります。学校生活で困っていることがある人は、すぎしち教室を思い出してください。自分の良いところを活かしながら、学校生活をより楽しいものにしていきましょう。

すぎしち教室の授業内容

すぎしち教室は、週に1回1～2時間の指導を行います。少人数で学習をする「みんなの時間」「運動」と、一人一人の実態に沿って計画した「個別学習」があります。

「みんなの時間」では、友達との適切な関わり方や、気持ちをコントロールする方法を学習します。「運動」では、友達と話し合ったり協力したりする運動の中で、友達との関わり方を実践しています。また、ゲームを通して勝敗を受け入れることも学びます。

「個別学習」では、自分に合った学習方法や、「状況判断」「学校生活のルール」「友達との接し方」「指先の細かい動き」「自己理解」等、児童の特性に応じた指導を行っています。

子供たちが自分の良さに気づき、友達との違いを認め、自信をもって生活できるよう支援しています。すぎしち教室のことで、お聞きになりたいことがありましたら、遠慮なくお声掛けください。

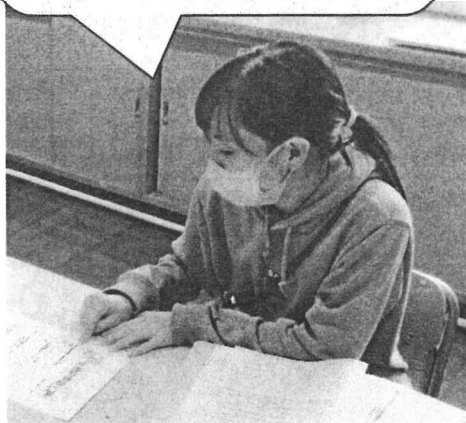
「みんなの時間」

「気持ち」の学習では、表情から相手の気持ちを考えました。



「個別学習」

自分の得意なことを活かした学習の方法や、気持ちのコントロールの仕方を見つけていきます。

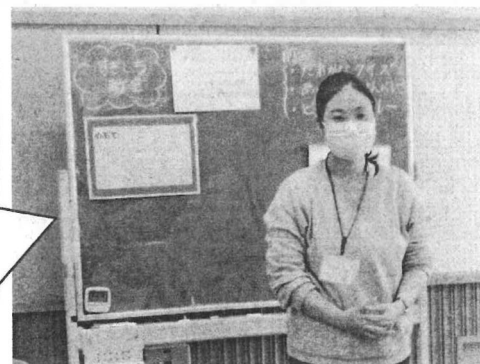


「運動の時間」

勝ち負けのある運動をしました。事前に、負けた時のことを考えておくと、切り替えがスムーズです。

いろいろな話し合い

自分の気持ちを考えたい友達の意見を聞いたり、少ない人数で話し合っていると、気づくことがたくさんあります。



5年生 ICT機器の活用

「ICT機器の活用」は、本年度も学力の向上の6番目の柱に挙げられています。

一人一台のタブレット端末の有効かつ積極的な活用・非常時などにおけるオンラインHRや授業の実施を目指します。

また、コンピュータ・リテラシーを身に付けることについてもゲストを招いて学習を進めていきます。

■ 電子黒板・教科における活用

電子黒板を使って学習を進めることは特別なことではありません。

また、子供達一人一人がタブレットを活用して学習しています。

国語で詩を書き、自分の思いや工夫、イメージした写真を付けて発表に使用したり、文章を書いてまとめたりしています。理科では、雲の写真を記録して、変化を観察しました。

杉七タイムでは移動教室について調べ、まとめるなど日常の学習に根付いています。



算数の学習では、図形を確認したり、社会科の授業では友達のまとめの様子を見たりしています。

個人でタブレットを使い、学習内容の習熟を図っています。



■ 委員会活動における活用

高学年になると委員会活動があります。集会委員会などは、全校で楽しめるクイズを作っています。

有効かつ積極的な活用について、みんなで知恵を出し合っています。

6月 行事予定

日	曜	行事予定
1	木	特別時程 歯科(1,4,5年) 意識調査(5年)
2	金	安全指導・避難訓練(不審者対応) 教育実習終
3	土	
4	日	
5	月	委員会活動 体力テスト予備
6	火	
7	水	音楽集会(2年)
8	木	
9	金	特別時程 水道キャラバン(4年) 内科検診(2年)・内科事前検診(5年)
10	土	
11	日	
12	月	移動教室(5年) PU教室(5年以外)
13	火	移動教室(5年)
14	水	移動教室(5年)
15	木	たてわり(1,3,6年) 水泳指導開始
16	金	特別時程 意識調査(4年) お話会(1,2年) 体育朝会(5,6年)
17	土	
18	日	
19	月	クラブ活動
20	火	社会科見学(6年)
21	水	集会(代表委員会) 音楽鑑賞会教室(6年)
22	木	社会科見学(3年)
23	金	特別時程 お話会(5,6年)・体育朝会(1,2年)
24	土	土曜授業(1,3,4年公開) 図工展示始(4年) 個人面談①
25	日	
26	月	個人面談②
27	火	個人面談③
28	水	個人面談④ たてわり(2,4,5年)
29	木	個人面談⑤ 口腔保健(6年)
30	金	個人面談⑥ 図工展示終(4年) お話会(3,4年) 車いすラグビー(5) 体力調査終

6月の生活目標

「室内での過ごし方を工夫しましょう」

生活指導部

間もなく梅雨の季節を迎えます。梅雨になると校庭で遊べない日が続くため、室内での過ごし方を工夫する必要があります。図書室で好きな本を読んだり、教室で友達とゲームをしたりする等、室内でどんな遊びができるかを学級で話し合っています。

また湿気で廊下がすべりやすくなるため、廊下歩行の際は、静かに右側を歩くことや、急いでいても走らないよう、普段以上に声をかけています。「杉七のきまり」を守り、休み時間を安全に楽しく過ごせるよう指導していきます。

